

積丹町と歩む新たな森づくり ～北海道初の共同施業団地～

積丹町 西川 源・成澤 直人
(独) 森林総合研究所森林農地整備センター 松村 伸治
石狩森林管理署 小林 大樹

1 課題を取り上げた背景

民有林においては、小規模森林所有者が多く、従来の施業方法や施業規模では高コストとなりがちなことから、森林組合等が中心となり、低コスト化に向けて施業の集約化等に取り組んでいます。

一方、国有林の多くは奥山に位置し、これまで民有林と連携した施業を行ってこなかったことから、民有地を迂回した林道により木材の運搬距離が長くなるなど、効率的な路網の整備が課題となっていました。

このことから、民有林と国有林が隣接する地域において、お互いが連携し効率的な路網整備と高効率な作業システムを導入することにより、森林施業の低コスト化を図り効率的な森林経営を推進することが必要となっています。

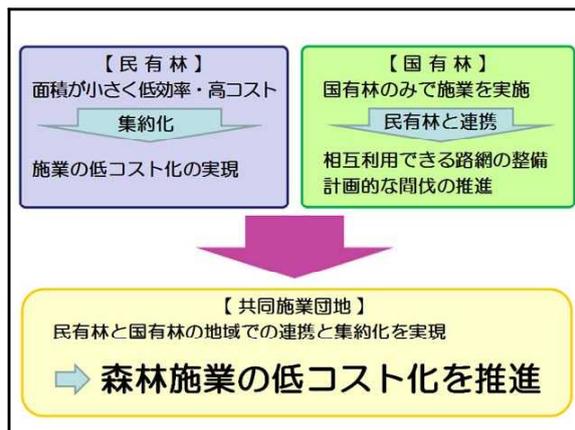


図1 共同施業団地について



写真1 分収造林地と神威岬

こうした背景をふまえ、平成 20 年に積丹町、(独)森林総合研究所森林農地整備センター札幌水源林整備事務所、石狩森林管理署の三者で締結した積丹地域森林整備推進協定による民・国連携の取組について報告します。

2 取組の経過

[積丹町と水源林造成事業について]

積丹町は札幌市の北西部、積丹半島の先端部に位置し、積丹岳・余別岳を中心に森林が町総面積の 8 割を占め、その森林に源を発する美国川、積丹川、余別川の河川、42.3km の海岸線を有する、農業・漁業・観光業を基幹産業とする町です。

森林総合研究所札幌水源林整備事務所は、昭和 39 年からこの河川流域の水源かん養上特に

重要な保安林で機能が低下している森林約 630ha について、積丹町と分収造林契約を締結し、森林のもつ公益的な機能の維持・増進を図るため水源林造成事業を実施しています。

[積丹町と石狩森林管理署との連携]

平成 19 年、町の分収造林地婦美丸山地区の間伐実施にあたり、隣接する国有防風保安林を通過する作業道の開設について石狩署へ要望がありました。該当箇所は、国有林の整備においても有効に活用できることから、関係者間の調整により、分収造林地内の両者の境界近くに作業道を整備し、国有林も作業道と連絡し国有林内に入る路網を整備することとしました。

平成 20 年、保護水面である余別川を渡河できないために間伐が遅れていた分収造林余別地区について、国有林の積丹林道から分収造林地へ連絡する基幹作業道の開設について検討することとなりました。

このことから、婦美六地区を含めた 3 地区を共同施業団地として設定し、路網開設や共同利用などの連携について三者で検討を行い、平成 20 年 11 月に北海道で初となる森林整備推進協定が締結されました。

単位:ha

地区名	国有林	町有林		合計
		森林農地整備センター	積丹町	
婦美丸山	351	67	—	418
余 別	198	95	31	324
婦 美 六	133	145	—	278
合 計	682	307	31	1,020

表 1 共同施業団地面積内訳



図 2 共同施業団地位置図

3 各地区の詳細

[婦美丸山地区]

この地区は、町有林の南側に国有林が広がっており、国有林では町有林や私有地が介在していることから人工林の間伐を行えませんでした。

平成 19 年度、町有林に国有防風保安林を横断する作業道を整備し、平成 21 年度に国有林はこの町有林作業道を起点として作業道を整備し 50ha の間伐を実施しました。

この地区は、町有林作業道を活用し国有林内に作業道を整備したことで、国有林の森林整備が進み国有林にメリットがあります。

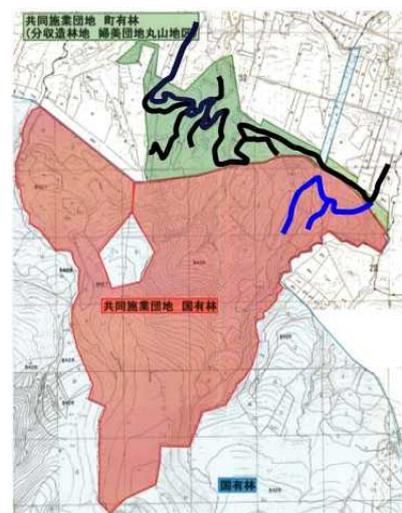


図 3 婦美丸山地区位置図



図4 余別地区位置図

[婦美六地区]

この地区は、町有林と国有林の双方にメリットがあります。

国有林は既設の作業道を活用し、国有林から町有林へ接続する作業道を平成 22 年度に整備し、町は、平成 23 年度に隣接する私有林を通過する基幹作業道を整備しました。

お互いの作業道を連結し循環路網としたことにより、運搬距離の短縮や登山道の迂回路としての活用などが期待されるとともに、国有林、町有林はもとより、私有林の森林整備についても推進することができると考えています。

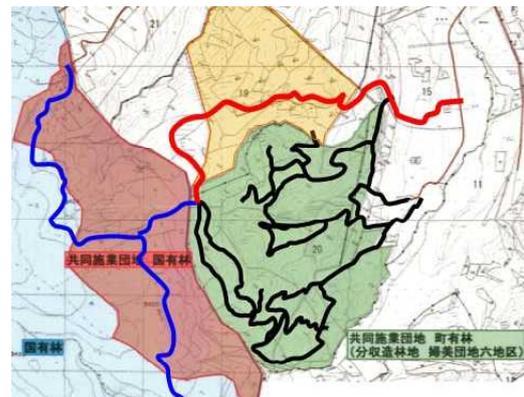


図5 婦美六地区位置図

4 森林整備の計画及び進捗状況

積丹地域森林整備推進協定の協定期間は、平成 20 年 11 月から平成 25 年 3 月までの 5 年間で、平成 24 年度見込を含む民国を合わせた実績は、間伐等が 160ha、利用材積では 3,303m³、路網の整備 19,958m を実施し、間伐面積では計画の 88%、路網整備は 98%を達成する見通しです。

実施主体	施業区分	計画	実績	
国有林	間伐等(ha)	96	79	
	利用材積(m3)	3,250	1,671	
	作業道(m)	1,900	4,072	
町有林	森林総合研究所	間伐等(ha)	80	81
		利用材積(m3)	3,600	1,632
		作業道(m)	17,400	12,993
	積丹町	間伐等(ha)	5	0
		利用材積(m3)	0	0
		作業道(m)	1,000	2,953
全体	間伐等(ha)	181	160	
	利用材積(m3)	6,850	3,303	
	作業道(m)	20,300	19,958	

表2 森林整備の計画と進捗状況

5 運営会議等の開催

協定の円滑な運営を図るために、年に数回、三者が集まり運営会議や現地検討会を開催しています。

この会議は、共同施業団地の森林整備状況や路網計画など、相互の事業について意見を交換し、共通認識をもつことによって、より効率的な森林整備を推進していくためのものです。また、共同施業団地以外でも、それぞれが進めている森林への取組などの、情報交換の場でもあります。



写真2 運営会議

6 三者が連携した取組

共同施業団地の設定を契機として三者が連携した取組を紹介します。

[JTの森積丹]

積丹町では、JT(日本たばこ産業株式会社)が進めているCSR(社会貢献活動)の一環として、全国で9番目となる森林整備協定を、平成22年度に北海道が進めている「ほっかいどう企業の森づくり制度」を活用して締結しました。

JTの森では、「海を育てる水源の森づくり」をテーマにJTの支援を受けての森林整備や生態系調査などの活動を行っています。また、春と秋の年2回、JT社員やその家族と町民

が一同に会し、保育作業の体験や都市と積丹町民との交流の場として、森林保全活動を行っています。



[上] 写真3 植樹会参加者で記念撮影 [下] 写真4 野塚地区ふれあい交流館

[地元産材を利用した木造公共施設]

町有林から伐採された積丹カラマツを使用した木造公共施設「野塚地区ふれあい交流館」を昨年12月に建設しました。

この施設では、構造材として積丹産カラマツ集成材、その他木製部材も主に道産材を使用し、木の良さや地域材の利用促進を図ることと世代間を超えた住民のふれあいの場として活用されます。



[風倒被害地における森林再生植樹会]

平成 23 年 9 月、森林管理局と積丹町の共催により、横浜国立大学名誉教授の宮脇先生をお招きし、広葉樹の密植・混植による森林再生植樹会を、積丹町内国有林の風倒被害地 0.2ha 開催しました。

町内外から 110 名が参加し、宮脇先生のご指導により、ミズナラやイタヤカエデ、町木のエゾヤマザクラなどを植えました。1m² あたり 25 本の密植と表土が雨で流れないようにワラを敷くなど宮脇方式と言われる植樹方法を体験しました。



写真 5 宮脇方式（密植しわらを敷く）



写真 6 意見交換会

[記者見学会での共同施業団地の PR]

平成 23 年 12 月 6 日に森林管理局主催による記者見学会を、婦美丸山地区などを会場に開催しました。

業界誌や一般誌など 9 社が参加され、山本石狩森林管理署長から、協定締結に至るまでの経緯や路網整備などの取組状況の説明のあと、協定後整備された路網を活用した間伐作業を見学しました。

その後記者をまじえ、共同施業団地の今後の課題について意見交換を行いました。

7 協定締結による成果

協定締結後 4 年が経過し、これまでの取組による成果として、

- ① 国有林や分収造林地を含む町有林双方が効率的で相互利用可能な路網の整備とその路網を活用した森林整備の実施
 - ② 運営会議等による相互の取組などの情報交換と認識の共有や町内外に対する森林整備などの取組の発信
 - ③ 国有林と民有林との関係の緊密化と協定の枠組みを超えた「JT の森」イベントでの協力した取組や施業現地検討会の開催
- などがあげられます。

8 協定の新たな取組

積丹地域森林整備推進協定は今年度末で当初の協定期間が終了しますが、引き続き協定を継続し連携した森林整備等を行うことで合意しました。次期協定における新たな取り組みについて説明します。

[共同施業団地の拡充]

現行の施業団地に隣接する私有林を含む民有林と国有林を 378ha 拡充し、これまで以上に路網整備の連携を図り未整備森林の保育施業を推進します。

[効率的な森林整備と木材利用の促進]

各地区の特性を活かし、路網の相互利用による森林整備の低コスト化の推進、施業の同時実施によるロットの拡大、販売物件情報の共有・発信、林地未利用材の利用方法の検討など木材利用の促進を踏まえた取組を推進します。

[共同施業団地を利用したソフト事業の取組]

一般の方へ森林整備や森林保全に対する理解を深めて頂くため、積丹岳など美しい景観を利用した森林トレッキング、林業体験教室などを三者で協力して行います。



図6 次期協定における共同施業団地位置図

9 おわりに

積丹地域森林整備推進協定は、当初の協定期間内で路網整備や森林整備の実施など着実な成果を上げることができました。

この共同施業団地を流れる美国川、積丹川、余別川は、源流から海まで町内で完結し、町民の飲料水として利用されているだけでなく、積丹端半島を囲む海に有機物やミネラルを供給するなどきわめて大きな影響を与える河川です。

民国がさらに連携を強化し積丹町が目指す「健全な海と川を育む豊かな森づくり」を実現するとともに、北海道における民国連計のモデルとなるよう取組を進めてゆきたいと考えています。



写真7 北海道遺産 ～積丹半島と神威岬～